令和７年（2025年）５月29日
長野県農業試験場病害虫防除部

病害虫発生予察注意報　第１号

病害虫名：コムギ赤かび病

１　発生予想　コムギ赤かび病が多発する恐れがある。

２　対象地域　県内全域

３　根　拠

（1）クロップナビ*を用いた「コムギ赤かび病感染予測システム」により、コムギ赤かび病菌がコムギに感染する好適条件日が出現している（表１）。

（2）北信地域の一部の栽培圃場において、５月 28 日に初期病斑が確認された。

（3）気象庁が５月 22 日に発表した１か月予報によると、気温は平年並または高め、降水量は平年並または多めとなる見込みで、今後もコムギ赤かび病の感染に適した気象条件が続くと予想されている。

（4）本年、県内の一部の栽培圃場では凍霜害が発生しており、被害を受けた穂はコムギ赤かび病に感染しやすい。

（5）早期に倒伏した栽培圃場がみられるため、コムギ赤かび病に感染しやすい。

表１　クロップナビによる感染好適条件の出現日

クロップナビ設置場所	5月20日	5月21日	5月22日	5月23日	5月24日
千曲市	－	－	●	－	－
上田市	－	－	●	－	－
松本市	－	－	●	－	－
伊那市	－	－	●	－	－

＊クロップナビとは
　長野県農業試験場とアスザック（株）（本社：高山村）が、イネいもち病の発生予測装置として共同開発した機器で、ピンポイントの気温、湿度、降水量、葉の濡れ時間、土壌水分、日照時間等を観測することが可能な装置。コムギ赤かび病の感染予測については、長野県農業共済組合の協力を得て、降雨、葉の濡れ時間、濡れ時間中の気温との組み合わせから予測し、県内４地点で観測している。

写真　コムギ赤かび病の初期病徴（右は令和３年の多発生時の様子）

４　防除対策と留意点について

（１）開花期から２週間程度が感染しやすく、この期間に曇雨天が続くと多発する。これまで防除を行っていない場合は、直ちに防除を実施する。開花期に防除を行った場合にも、その後降雨が続くようであれば、追加防除（１回目の防除の 10～14 日後）を行う。

（２）凍霜害がみられる栽培圃場では傷口から感染しやすく、また生育が不揃いな栽培圃場では、感染しやすいステージの穂が存在するため特に注意する。

（３）今後も、降雨により発病が助長される可能性があるため適期に収穫する。

（４）収穫後の穂は水分を含んでおり病原菌が増殖する危険があるため、収穫後はできるだけ速やかに乾燥させる。

（問合せ先）
担　　当　病害虫防除部　近藤、藤沢
電　　話　026-248-6471
ﾌｧｸｼﾐﾘ　026-248-6473
電子ﾒｰﾙ　bojo@pref.nagano.lg.jp